

				NPO法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴 会 報			
				発行人/理事長 馬 場 英 男			
				(連絡先) 〒625-0062 京都府舞鶴市森 875-2			
				TEL/090-3281-7539 FAX/0773-63-9764			
				E-mail brick@iris.eonet.ne.jp			
<b>特定非営利活動法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴</b>							
会報 107 号 令和元(2019)年 5 月 1 日							
「NPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴」ホームページ				http://www.redbrick.jp/			

## 目 次

1 令和元年度法人通常総会開催のお知らせ	事務局	5 「バラスト笏谷石	小野 章
2 令和元年度事業計画案と参加募集	事務局	6 「建部山保壘砲台跡事前調査」報告	馬場英男
3 「赤煉瓦ネットワーク岸和田×泉州大会」概要	事務局	7 その他 会費納入依頼、刊行物、編集後記	事務局
4 小江戸「川越」蔵造の街並み散策体験から (下) 嵯峨根八郎			

### 1. 令和元年度NPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴 通常総会 開催のお知らせ

事務局

令和元年度のNPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴の通常総会を下記の通り開催します。

※ 同封のハガキにて、5月31日までに総会への出欠を必ずお知らせください。

- 開催日時 令和元年6月9日(日) 午後2時から
- 開催場所 「アトスペース973」にて

舞鶴市字森 973-1 (白鳥通り大森神社参道入口)

#### 3. 議 案 (予定)

- (1)・(2) 平成30年度事業報告・会計報告
- (3)・(4) 令和元年度事業計画・会計予算
- (5) 定款の改正
- (6) 令和元年・2年度役員選任 の予定

### 2. 令和元年度 事業計画案と参加募集

事務局

令和元年度に予定している事業計画案を下記の通りお知らせします。多くの皆様のご参加をお願いします。

#### ①「第9回市外近代化遺産視察会」(予定)

- 見学先 楠葉台場跡史跡公園・サントリー山崎蒸留所・昼食・飛行神社・淀川河川公園背割堤・サントリー京都ブルワリー
- 定 員 25名
- 開催日 7月4日(木) AM7:30~19:00
- 参加費 会員5,000円/人程度(昼食代・保険込)

会員外は、千円アップ

- 参加申込 6月10日(月)までに、事務局まで。

#### ②「第7回市内赤煉瓦建造物見学会」(予定)

- 見学先 建部山保壘砲台跡(標高約307m)
- 開催日 10月27日(日) 9時~13時
- 参加費 500円(資料代、傷害保険代)
- 参加申込 10月11日(金)までに、事務局まで
- 集合場所 建部山登山登り口駐車場

### 3. 「赤煉瓦ネットワーク岸和田×泉州大会」開催概要

事務局

本年開催予定の「赤煉瓦ネットワーク岸和田×泉州大会」の概要が、赤煉瓦ネットワーク事務局から発表されましたのでお知らせします。

- 大会開催日時：2019年11月9日(土)  
13:00~17:00

- ・大会会場：現在未定
- ・懇親会 18:00~20:00
- ・懇親会会場 現在未定(大会会場近くを予定)

- 見学会：2018年11月10日(日)  
09:00~15:00頃

- ・明治期の一大煉瓦生産地であった岸和田および泉州一帯の赤煉瓦

#### ■会費(予定)

- ・大会+懇親会+煉瓦見学 7,000円程度/人
- ・大会+煉瓦見学 1,500~2,000円程度/人

#### ■大会主催者

岸和田のまちあるきガイド団体、岸和田市・田尻町・柏原市・貝塚市・泉南市の埋文関係者

#### ■開催支援 赤煉瓦ネットワーク

※参加者募集等は、次会報109号(8/1発行)で詳細します。

一番街通りと並行している「大正浪漫夢通り」は洋風の店舗が軒を連ねているので撮影に使われるそうです。

この通りにある大正モダンな喫茶店「シマノコーヒー大正屋」。ここでモーニングにしました。元呉服屋だそうでジャズが流れていました。この雰囲気のお店は50年前頃には至るところによくありました。



「時の鐘」は毎日4回、時を知らせる川越のシンボルです。町の中央にあり目印になっています。



「川越まつり会館」には秋に催される勇壮な川越祭りの資料や歴史と伝統を知りたいならここが良いでしょう。



人力車やレンタル着物の店もありました。

この通りで目を引く建造物は威風堂々の「川越商工会議所」は神殿のような柱が特徴です。昭和2年建設の元武州銀行です。



明治時代から続く「菓子屋横丁」には、昔ながらの菓子屋や駄菓子屋が軒を連ねています。30軒もの和菓子店が路地を囲むように店を出している歴史があり川越はかつて駄菓子の産地として全国的に有名で、その面影を今でも残しています。



テントで出店をしているあめ細工店。様々なあめ細工商品を並べ、タイミングがよければ美演販売もしてもらえます。また、こちらでぜひチャレンジしてみたいのが、「あめふうせん(100円 税込)」。やわらか〜くなったあめを、太いストローで吹いて丸く膨らませるお菓子です。これがまた、けっこう難しい! なかなか膨らまないと、勢い良く吹くとあめは割れてしまいます。店主さんに加減を指導してもらいながら、ゆっくり膨らませていきましょう。

縁結びのご利益が授けられる「川越氷川神社」。ぜひ大切な人や結びたい縁を想像しながら訪れてみてください。七五三の参詣が多く絵馬のトンネルは見事。すごい数です。新しく取り付ける隙間もないくらいです。



本殿は祀られている神様が家族や夫婦であることから縁結びのご利益があると伝えられています。家族や友人、仕事などの縁を祈願しても良いそうです。少し離れているのでトロな巡回バスも運行しています。

類いの街並みの高岡市の「土蔵造りの街並み」や美濃市の「うだつの街並み」も先月訪れましたがさらに一段と迫力がありました。

午後の予定もあって帰りは大宮乗り換えで東京まで80分、帰途につきました。時間が限られ急ぎ足でしたが改めてゆっくり立ち寄りたかったです。

平成31年2月のNHK番組「プラタモリ」で福井市を紹介、笏谷(しゃくだに)石の採石場跡を見学していた。その解説では、朝倉氏がすでに広く利用していた笏谷石は、結城秀康が入城した福井城の石垣や瓦に使われた。福井の三國湊は江戸時代に北前船の寄港地として賑わっていたが、福井市の足羽山(あすわやま)を構成する凝灰岩を切りだし、手ごろな板状に加工して船のバラスト兼商品として販売した。現代の貨物船と同様、北前船も荷を下ろして出港する際に空荷(片荷)とすることは避けたいことであった。切り出された笏谷石は、足羽川を三國湊まで25km運ばれ北前船に積載された。

笏谷石は、主に日本海沿岸各地で見られるが、比較すると、酒田や小樽の建築物など北陸・北海道方面のほうが多いという。それは、北から三國湊方面へ運ばれる物資(昆布・ニンジンなど)がその逆の方向(米・塩・木綿など)より量的に多いからという。

以前、赤煉瓦ネットワーク会報8号に「英国製耐火煉瓦の世界各地への旅」を、当倶楽部会報103号に「船のバラストの話」を寄稿させていただいた。その際言及したバラスト貨

物、特にオランダ船が運んだ棹銅、日宋貿易の船が積んだ宋銭などは、理想的な「高価バラスト」であった。また、明治5年の鉄道初開設後、欧米から膨大な量のレールが船で運ばれたが、昭和初期に全量国産化を達成するまで約半世紀、日本はこの高価バラストに多額の外貨を費やした。

笏谷石は高価とはいえないが、国内航路の運送業者にとっては悪くない商品であったろう。ただし、北前船が瀬戸内へ延伸してからは、より高価で固く重い御影石をバラストにするようになり、笏谷石の割合は減った。



復元された北前船(野辺地郷HP)



往時運ばれた笏谷石の形状(村上大理石榊提供)

6. 第7回市内赤煉瓦建造物見学会予定の「建部山保塁砲台跡」事前調査報告

今年の市内赤煉瓦建造物見学会は、建部山保塁砲台跡を予定しているが、3月30日(土)に法人理事7名で事前に安全確認のため登山したので報告する。

建部山の山頂には、旧陸軍が日露戦防備のため、明治30年に着工し明治34年に完成させたコンクリートと煉瓦造の保塁砲台が当時の姿そのまま現存する。

最近の登山経験者から山道がシダに覆われ登山が困難との情報があり、調査のため登山を計画した。午前10時頃に出発、登頂には1時間30分を要した。山道は、かなり荒れた状況で、始終足元から目を離すことが出来ない。いわゆる岩や石がむき出しのがたがた道がほとんどで、聞いていたとおりシダや熊笹が生い茂っている箇所も多くあり、人ひとり通れるだけの道が続いていた。



急斜面を削り石垣で築かれた山道が続く。豪雨によると思われるが石垣が崩落しその影響で約10mにわたり山道に亀裂が入る大変危険な箇所が一か所確認できた。今後注意して通る必要があるようだ。



山道には要所に舞鶴ライオンズクラブが以前に設置した「山頂まで約3km・約1.5km・舞鶴湾展望場所」などの看板があり安心して登れる。当時の山道は整備も行き届いていたのではと、荒廃している現状に残念な気持ちになった。



登山入り口の表示看板



道中の石積アーチ橋



午後から雨との天気予報のとおり、山頂手前でぽつぽつと雨が降り始めた。

山頂に到着すると、煉瓦と石積の構造物が目に入る。以前登った際の写真のイメージとは違い、砲台の建物前には樹木が生い茂り、良い写真が撮れないのが残念。雨が激しくなる前にと急いで建物確認、写真撮影を行った。



下山は滑らない様注意しながら急ぎ足であったが約 40 分

で降りる事ができた。下山後、登山入口付近に設置されている案内看板前で記念撮影し、近くの「とれとれセンター」食堂で昼食を摂り、全員元気に見学会を終えた。



この調査の結果、十分に見学は可能と思われたので、開催日を検討し、参加者を募集し実施することにした次第である。(前掲のとおり、10月13日に実施予定)

## 7. その他 会費納入依頼、刊行物案内、編集後記 ほか

事務局

1. 会費納入について 令和元年度分の会費 2,000 円を、同封の振込用紙にて 5 月 31 日までにお振込み願います。

2. 刊行物案内 「建築と都市の保存再生デザイン～近代文化遺産の豊かな継承のために～」

田原幸夫+笠原一人+中山理恵 編 石田潤一郎+北河次郎+富永善啓+清水重敦+中川理 著  
鹿島出版社 定価(本体 3200 円+税)

この出版は、京都工芸繊維大学大学院の「建築都市保存再生学コース」が 2015～2017 年度に行った、煉瓦造・鉄筋コンクリート造・木造の近代建築の保存活用におけるテーマをまとめたものです。赤煉瓦ネットワーク舞鶴大会 (2015) で基調講演をお願いした田原幸夫氏が総括リーダーとして他 2 名で編集されたものです。

3. 訃報 当法人理事を長年務めていただいた鷲田龍作さんが、4 月 16 日に 68 歳の若さでご逝去されました。葬儀は近親者で行われ、後日お別れ会を開かれます。ご冥福をお祈り申し上げます。

### 4. 編集後記

4 月 1 日に新元号が「令和」と発表された。今号が平成最後の会報発行となる。

「平成」は、我々にとって、「舞鶴市まちづくり推進調査研究会」、「まいづる建築探偵団」、「赤煉瓦倶楽部・舞鶴」、「NPO 法人赤煉瓦倶楽部舞鶴」と活動団体名は変わっても営々と続けてきた「舞鶴の赤煉瓦を活かしたまちづくり活動」の時代であったと言っても過言ではない。今では、北吸地区の「舞鶴赤れんがパーク」は観光の一大拠点と化している。

それでは、「令和」の時代に目を向けて、我々が目指すのは何だろうか？

まだ光が当たっていない赤煉瓦建造物に光を当てる事ではないか。

いつの日か多くの人々が訪れる場所になることを願って、地道に活動を続ける事だと思っている。まずは榎山・建部山・鞆谷砲台などに観光ツアー用の山道整備と砲台付近のトイレや眺望場所等の整備が喫緊の課題と思われる。この整備により、赤れんがパーク、神崎ホフマン式輪窯と連携し、線で結ぶ舞鶴の近代化遺産の観光ルートを設定、通過型の観光から滞在型の観光へ脱皮を図ることが舞鶴の活性化に一層つながるのではないかと。と思うのだが、如何でしょうか？ (h. b)

会 員 資 格： 会費納入者 (特別会員は除く)。入会金 1,000 円、年会費 (個人 2,000 円、法人 10,000 円)。  
 なお、会員申込用紙は、ホームページからダウンロードできます。 ご寄附も受け付けます。  
 会費・寄付金等 振込先： ゆうちょ銀行 口座番号 (01010-6-21476) 加入者名： 赤煉瓦倶楽部舞鶴